

朝日大学病院医療事故の公表について（包括的公表）

朝日大学病院の理念の一つに「安全で質の高い医療の提供」があります。当院では理念に基づき医療事故防止のため様々な取組を行っていますが、この様々な取組に加えて院内で発生した医療事故を自発的に公表することが「社会」から求められています。そこで当院では、院内・院外への情報提供や医療の透明性・信頼性を資する場として定めた医療事故公表基準に基づき 2020 年度に発生した当院の医療事故をここに公表します。

2021 年 5 月
朝日大学病院
病院長 日下 義章

【医療過誤による患者影響レベル 3b 以上の公表件数と概要】

期 間 : 2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日
公表件数 : 2 件

分類・レベル	診療・4a
事例	<p>患者は 70 代女性。2001 年 12 月当院にて膵尾部膵腺房細胞がんに対し、膵尾部切除術を施行した。経過観察中の 2011 年 12 月に膵体部腫瘍と左腎門部リンパ節腫大が明らかとなり、2012 年 2 月他施設にて残膵体部切除術、左副腎合併切除、左腎門部リンパ節郭清を施行された。2013 年から再度当院にて経過観察となったが、2020 年 6 月に実施した MRI 検査にて、左腎に浸潤する腹膜再発腫瘍を確認し、前回と同施設にて 9 月に左腎摘出術および脾弯曲部結腸合併切除術を施行された。術後は手術施行施設と当院にて経過観察を実施している。</p> <p>2020 年 6 月の時点で、過去の画像を見直したところ、2016 年の MRI 検査において腫瘍の確認が可能であり、患者は毎年定期検診を受けていたにもかかわらず、再発の早期発見に至らなかった。</p>
再発防止策	<p>今回のインシデントを院内に周知し、検査を依頼した医師が読影レポートに依存しすぎないことを注意喚起した。</p> <p>近年、CT 等の検査数が増え、1 検査で発生する画像数（300～800/1 検査）も増加している。しかしながら、医師不足により画像診断医の増員を図ることができていない。今後、診断能力を上げるためにさらに画像診断医増員などに尽力し、画像診断の確認不足解消に取り組んでいく。</p>

分類・レベル	処置・3b
事例	<p>患者は80代男性。大腿骨骨折にて入院し、2日目であった。膀胱留置カテーテルがちぎられて、先端が膀胱内に残存し、翌日の骨折手術の際に膀胱鏡で除去した。</p>
再発防止策	<p>高齢の患者は、環境の変化や痛みなど安楽を障害されることにより、一時的にせん妄症状が強くなる傾向がある。そのような時に、手足の自由を奪う抑制は、さらにせん妄症状を助長させると考えるため、最小限の抑制で危険防止に努めている。今回も保護衣のみで様子を見ていたが、カテーテルを切断されてしまった。患者の理解力や認知力を考慮し、カテーテルの留置や持続点滴、心電図モニター装着などの必要性を医療チームで十分検討し、患者の負担にならないように配慮し危険防止に努めていく</p>